

庄内協同ファームだより

No.168 2017年9月号



発行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonafarm.com>



生き物調査の様子
調査が行われました。田んぼの土中にはミジンコやイトミミズなど生き物が生息し、田んぼ表面にはそれを捕食するオタマジャクシやヤゴを見つけることができました。生き物の中に

は、まずいがゆえに捕食さ

ー先日、地元の小学生たちと「田んぼの生き物調査」をしました。田んぼの周りや土の中に生息する生き物の種類や数を調べ、その生態系や生息状況を把握し、環境保全や農地の多面的機能に対する理解を深めるのがこの生き物調査の目的です。田舎の子供たちといえども泥の中に裸足で入るという経験はそうそうなく、悲鳴と絶叫を上げながら

をあつたようです。
今年の夏も厳しい暑さが続きましたが、春は雨や低温の日が多く農作業をするにあたっては色々と苦労が多い年でした。田植えの時期は好天で経過しましたが、その後6月に入ると急に寒くなり作物の生育もかなり鈍化しました。そして、作物だけでなく、田んぼや畑に生息するカエルやイトミミズなどの成長にも少なからぬ影響があつたようです。

残暑お見舞い申し上げます。

今年の夏も厳しい暑さが続きましたが、春は雨や低温

れず、悠々と生き残っている輩も存在するという話も聞

いたことがあります。田んぼの中の食物連鎖のつながりに、子供たちは「弱肉強食!」と笑いながらもその仕

組を理解していました。また、カエルの個体数が極端に少なく、今春の天候不順や低温の影響で成長が遅れてい

ることがわかりましたが、絶滅危惧種であるニホンアカ

ガエルも数匹確認することができました。

生き物調査の最後にみんなで有機米で作ったおにぎり

をいただきました。たくさんの生き物の中で育った作物

も生態系の一部であり、それを食べる人間もまた生態系

の一部であると、担当市職員の方が説明してくださいました。また、子供たちにこんな質問もしていました。

「ご飯一杯分のお米は何円すると思いますか?」と。「三千円!」という回答からスタートし、三十円という正解が出るまではしばらく時間がかかりました。

需要と供給の均衡が崩れれば価格の自動調節機能によつて価格が変化するのは当然のことです。これはどこか生態系における生息生物の変化にも似ています。生態

系の変化は生物の進化の過程であるともいえるし、弱肉

強食の結果でもあります。私たちが行つている有機農業

は、環境保全をはじめとする農地の多面的機能を維持す

る役割も担つてゐると考えます。また、安全安心な食べ

物を求める消費者に食べていただくため、日々努力しな

がら作物を育てています。一方で食べ物に対する価値観

も変化してきており、安価なものや、便利なもの、様々

な食品が世の中に流通しています。資本主義という生態

系の中、ある意味対極に位置する有機農業ですが「弱肉

強食の世界で生き残るのは強いものとまずいものだけ」

にならないよう頑張つていただきたいと思います。

あいコープふくしま 庄内浜ツアー

本間 美佳



今年で6回目になる「あいコープふくしま」との交流事業「庄内の海、生き物調査、だだちゃ豆収穫体験!家族de生産者のみなさんと交流しよう」ツアーが2泊3日で行われました。当日まで天気の心配がありましたが、一度も雨に降られることなく、3日間とも思い切り楽しむ事ができました。今回は12家族48人の参加で、小さなお子さんもたくさん参加してくれました。

初日は庄内に着いて早速海水浴!私が由良海岸に着いた頃には皆さん海の中で大はしゃぎで、子供達の元気な声がたくさん聞こえてきました。初めてお会いする方ばかりでしたが、皆さん気さくに話かけて下さり、色々なお話しをすることができました。

2日目は加茂水族館から始まり、その後は夕方まで

海水浴です。前日に比べ波が高く、小さなお子さん達は泳ぐことができませんでしたが、岩場でカニや貝取りを楽しみました。大人の方が真剣で、実は子供達よりも楽しんでいたように思います。

3日目は枝豆収穫体験を行いました。初めて選別機を見る方も多く、興味深々な様子でした。収穫した枝豆はその場で茹でていただき、美味しくいただきました。皆さん手が止まらず、あっという間に完食でした。次に自然学習交流館「ほとりあ」へ移動し、生き物観察をしながら自然にふれ合いました。館長さんから自然の大切さ、生命の大切さについて、外来生物問題などを教えていただき、大変勉強になりました。

楽しい時間はあっという間で、3日間のツアーを無事に終えることができました。皆さんの笑顔や元気な声を聞き、大人も子供も思いっきり庄内を満喫できたかなあと思います。お母さん達とは子供の食生活の事など情報交換もたくさんできて、私自身とても勉強になりました。そして子供達からはたくさんの元気をもらいました。あいコープふくしまのみなさん始め、ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。

また来年お会いできることを、今から楽しみにしています!



アイディア①

お米を研ぎ、水を入れたら、冷蔵庫に一晩入れる。
常温ではなく、低温吸水するとおいしく炊ける。
(山形県 30代男性)

アイディア②

玄米を炊く場合
玄米を研ぐ時、泡立て器を使用する。
泡立て器を使うことによって玄米の表面に傷がつき、水を吸水しやすくなる。
(山形県 O.N.)

お米の炊き方大募集!

掲載させていただいた方には
もれなくお米3合をプレゼント!
ご応募いただいたアイディアは
順次掲載いたします。

【宛 先】
FAX番号 0235-78-2140
メール honma@shonaifarm.com

商
品
紹
介

「つや姫」

「うるちつ粉」



米作りの一年は、長い

ようで短い。春に種まき

をし、五月に田植えをし、

水管理、除草、草刈り等

をやっているとあつとい

う間に夏が来て、出穂

を迎え、秋が来て収穫

となる。

今は山登りに例える

と、稻の一生の八合目に

あたる。今後の天候次

第で、収量に大きく影

響がある。自然災害の



ないことを祈るばかりだ。

今年の春作業は好天に恵まれ順調に推移したが、六月に入ると低温が続き、稻の生育は停滞して分けつも進まず、平年より大幅に遅れ作柄が心配されたが、七月になると気温も上がり生育もやや持ち直した。長年米作りをしてきたが、このような天候は初めての経験だつた。毎年の事だが、気候変動の激しさを感じる。生き物調査をすると、今年は生き物の数が極端に少なかつた気がする。生き物も、低温で動きが鈍いのだろう。

「つや姫」を栽培して数年がたち、消費者の方々からの評判の良さに作り甲斐のある米だと思う。百姓は毎年一年生と言われる。その年の天候により管理も違つてくるので毎日気が抜けない。今後の秋の天候にもよるが、美味しい「つや姫」を皆さんにお届けしますので、是非味わつてみて下さい。

小野寺 彰



庄内協同ファームにはお米をそのまま製粉にした商品が2つあります。

ひとつはうるち米が原料の「うるちつ粉」、もうひとつはもち米が原料の「もちつ粉」です。

どちらの原料も、庄内協同ファームの基準で栽培され、農薬は慣行よりも8割削減、化学肥料は使用せず、有機質肥料を使用していますので、安心して使うことができます。

うるちつ粉とともにもちつ粉の違いですが、一般的にはうるちつ粉は歯ごたえがあり、和菓子の柏餅やういろうかるかん等に使われます。もちつ粉のほうは、なめらかな食感が特徴で、大福餅や白玉だんご等に使われます。

最近はインターネットで検索すると、簡単なレシピをすぐに見つけられます。変わったレンジピではから揚げの衣などに使うと通常で揚げるよりもカラツと仕上がるようです。

休日に小さなお子さんと親子そろってお団子作り等も楽しく出来ていいかも知れません。その際は庄内協同

ファームのうるちつ粉、もちつ粉を使用してしていただければ幸いです。宜しくお願ひします。今野昭史

庄内 おかあさんの ～おいしい台所～

～ミニトマトとかぼちゃの煮物～

(材 料) かぼちゃ、ミニトマト、砂糖（大さじ5）、塩（適量）

(作り方)

- 一口サイズに切ったかぼちゃを鍋に入れ、ひたひたになるくらいの水を入れる
- 砂糖を大さじ5杯入れ、湯むきしたミニトマトを入れる
- 落し蓋をし、中火で10分煮る
- かぼちゃに串が通ったら、塩を入れて出来上がり

トマトのだしが効いた
簡単煮物！



冷めても味が染みて
美味しい！

小野寺美佐子



ペンリレー

徒然草

志 藤 知 子



庄内平野は
今、出穂の時期
を迎え、緑の平

原から黄金色の
秋へと変わる過

渡期にいます。

日本列島に長く居座つた台風も庄内には大きな渦を残すことなく通り抜け

なによりです。

春先から何だか変な天気の多かった今年、枝豆の生育にも大きく影響し、平年より1週間以上も遅れて収穫がスタートしました。立秋を迎えて、ようやく出足が揃つたものの、収量はあまり芳しくないようです。天候に左右され易い農作物を安定的に供給する事は私達の願いでもあるのですが、現実はなかなか思うようには行かないようです。

頑張って報われたり、頑張っても報わ

れなかつた
りの繰り返
しの中で夫

婦で農業を
して約40年、

夫も古希を
迎え、私に
も年金受給
の通知が来
るような年
になりました

た。病知らずだった体にも異変が生じたり、毎日の食事の後には、薬を飲む習慣を身についてしまいました。

仕事をこなしながらも、頑張りすぎないように頑張ることを心がけ、体を労るような働き方に変化してきています。

自分達の子供を後継者として育てられなかつた事に特に後悔はないのですが、この頃志を持つ青年に自分達の農業を引き継いでもらいたいという思いを強くしています。人手を借りながら自分達が中心になつて今の経営を維持しても早晚限界が来る事を感じる年になつたということでもあるでしょう。漠然と思つたり考えたりしているだけでは解決がつかない事に道筋をつけないと強い意志を持って動き始めています。

私達のしている有機農業が今の形にたどり着くまでの長い道のり、経験、失敗など試行錯誤の挑戦を毎日の作業や暮らしの中で伝えながら共に時間を過ごせたら持つているものすべてを注ぎ込みたいと溢れる思いを抱えながら待っています。

長らく培ってきた有機農業の技術に加え、庄内協同ファームという独自の販売力を持つ今の我が家の経営なら魅力的と思つてくれる人もきっとどこかにいる筈。

離農する人が増えていくという逆境

の中だからこそ志をもつて就農する人は大きなチャンスかもしれません。ここで生まれ、ここで育つた人とは違う目線で辺りを見れば又別の発想が生まれるかもしれません。勝手に想像を巡らせては新しめ夢を一人でたぐり寄せてします。

二人で頑張ればまだ何とかなるうちにバトンを渡す相手を見つけ、しばらくは並走できればと願っています。血縁者以外に道を譲る良い方法もきっとあると信じて。

あとがき



7月に開催された中学総体県大会。

優勝して全国大会に出場することを目指し、息子たちは厳しい練習を仲間と乗り越えてきました。学校近くにある山まで5km往復する山ランでスタミナと足腰を鍛え、週末は1日練習か遠征、月にサポートに必死でした。今年は30年以上地域で指導してきた監督が息子たちを全国大会に出場させて引退する!と宣言した節目の年で、その夢を叶えるべく、先輩OBの皆さんのが道場に集結して、惜しみなく子供たちに技を教えてくれ、子供達もまた貧欲に教えを吸収していました。そして迎えた大会当日。



動力除草機

「働く農機具」

以前は除草と根の活性化でしたが、現在は主に除草目的の機械です。歩行型と乗用型があり、株間・条間同時除草の機械と条間除草だけの機械があります。株間除草には、スプリングを使用する、プラ製の羽車を回す、金属棒の羽を強制的に回す(歩行型)もあり、条間はどの機械も爪型、俵型の円筒型除草車輪を回して除草します。

7月に開催された中学総体県大会。優勝して全国大会に出場することを目指し、息子たちは厳しい練習を仲間と乗り越えてきました。学校近くにある山まで5km往復する山ランでスタミナと足腰を鍛え、週末は1日練習か遠征、月にサポートに必死でした。今年は30年以上地域で指導してきた監督が息子たちを全国大会に出場させて引退する!と宣言した節目の年で、その夢を叶えるべく、先輩OBの皆さんのが道場に集結して、惜しみなく子供たちに技を教えてくれ、子供達もまた貧欲に教えを吸収していました。そして迎えた大会当日。

結果は、団体戦3位個人戦も3位と残念ながら全国大会の夢には届きませんでしたが、力を出し切った子供達はとても清々しい表情でした。厳しい中にも深い愛情を持って子供達を育ててくれた監督。「柔道で飯が食えるわけではない。けれども柔道で鍛えた心と体は人生の中で困難にぶつかった時に必ず自分の助けになる」が口癖でした。そんな監督の想いは多くの教え子に受け継がれて帰省や帰郷したOBの先輩方が、今度はスポーツのコーチになって教えてくれます。監督最後の教えを息子たちが受けた事が出来た幸運に感謝しながら、地域を守るとは無償の愛で人を育てることの先にのあるのだなあとつくづく思つた熱い夏でした。

(苅)